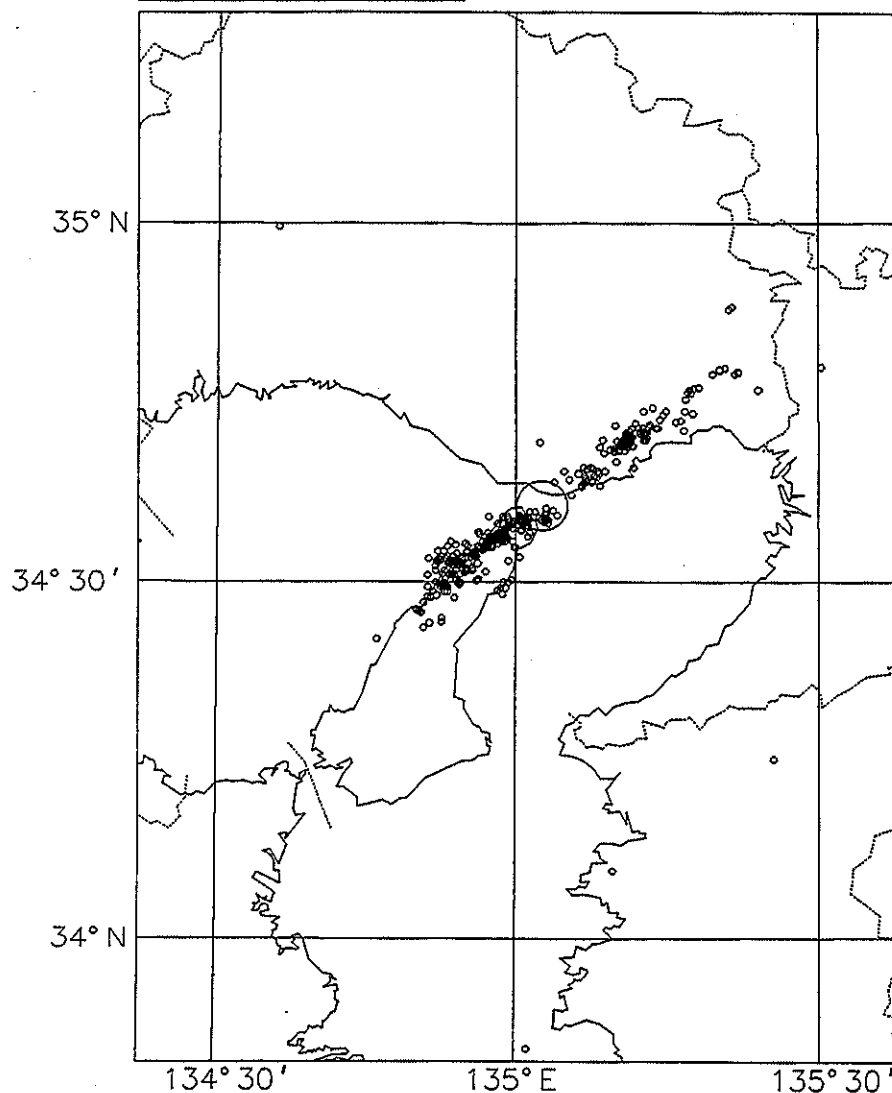


兵庫県南部地震の余震活動

1995 01 17 05:00 -- 1995 01 21 15:00

50km

N=347



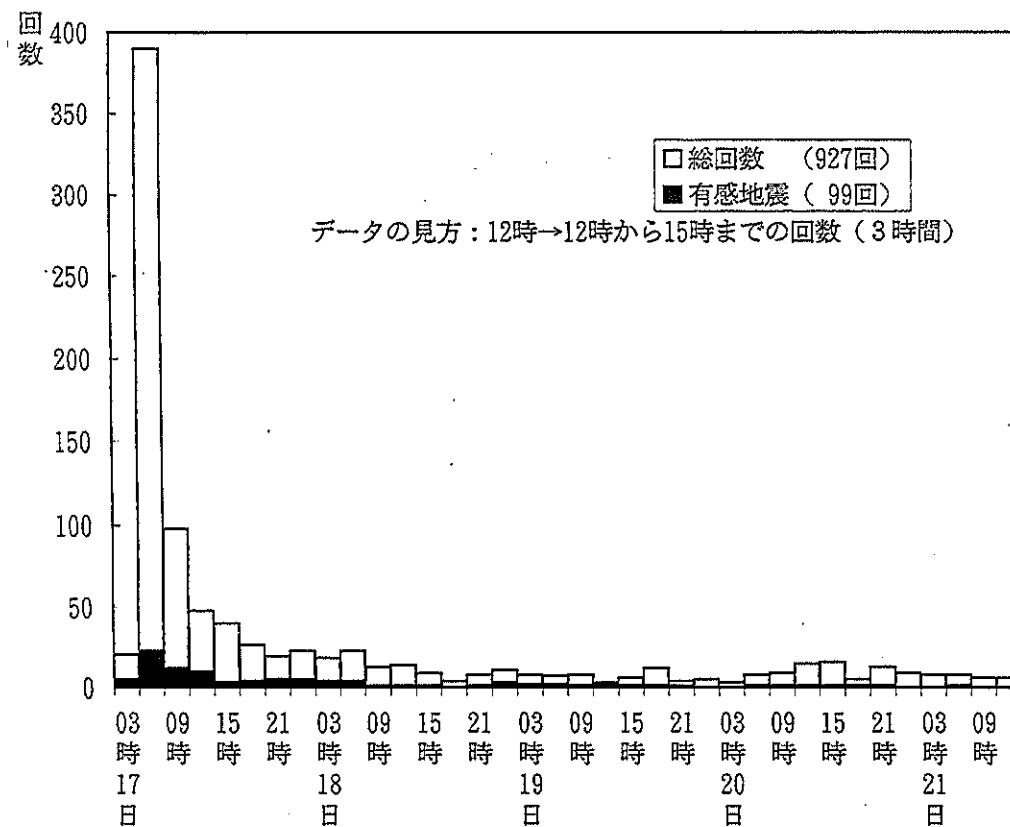
(大阪管区気象台による自動決定震源)

4枚1組

平成7年1月21日17時気象庁

時間別地震回数

(21日15時まで)

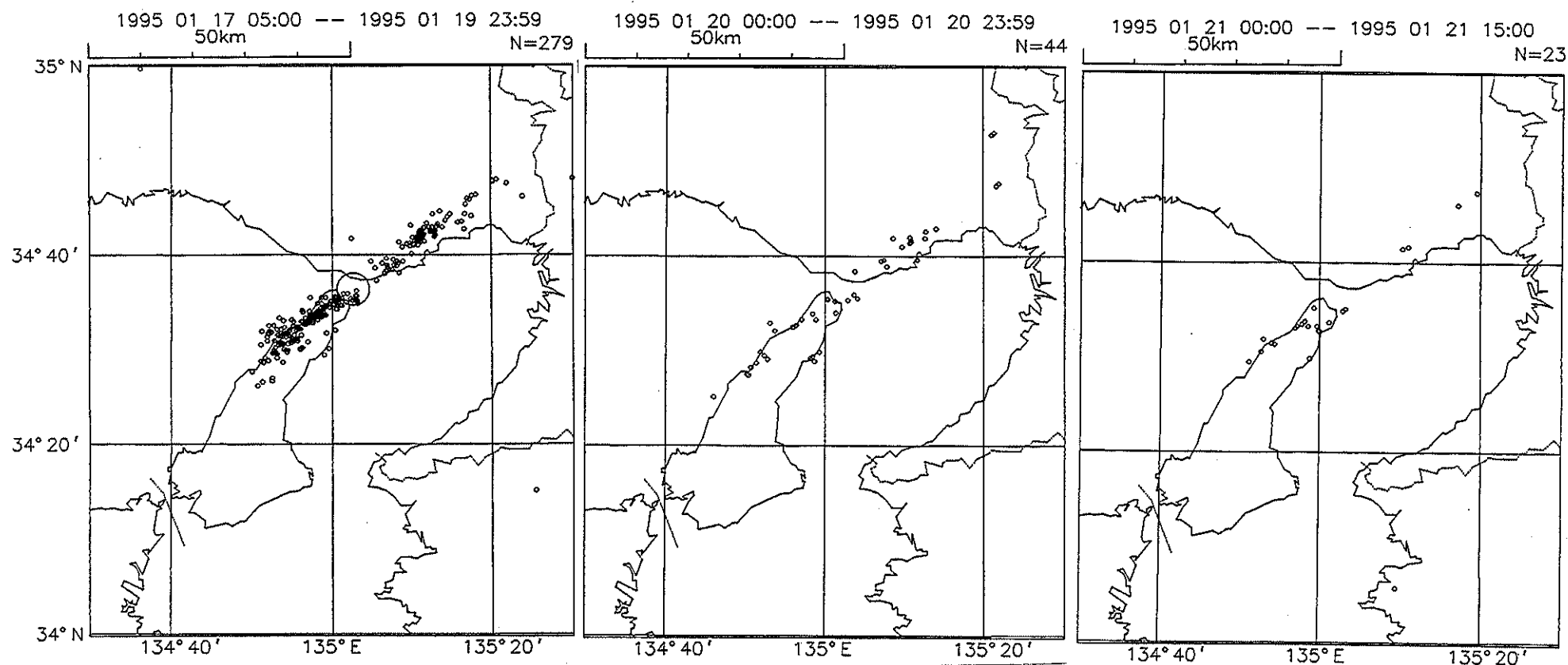


余震の発生数は、昨日の朝方発生数が一時的に減ったが、その後幾分増加し、均して見ると概ね次第に減少している。このように、余震活動は、多くの場合、一時的に発生数が減ると、その後増加するという傾向がある。

平成7年1月21日 17時 気象庁

兵庫県南部地震の余震活動

(大阪管区気象台による自動決定震源)



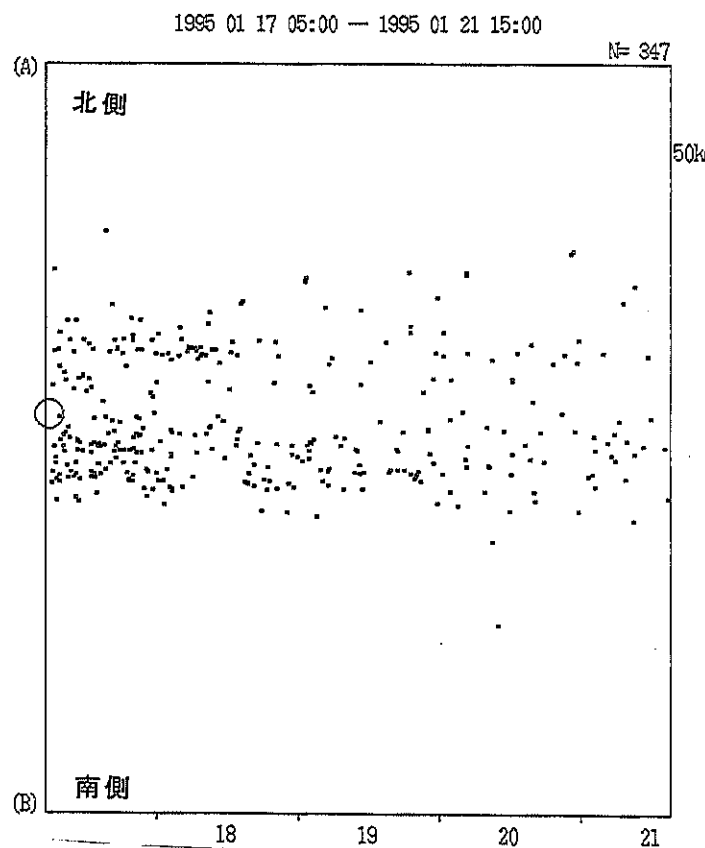
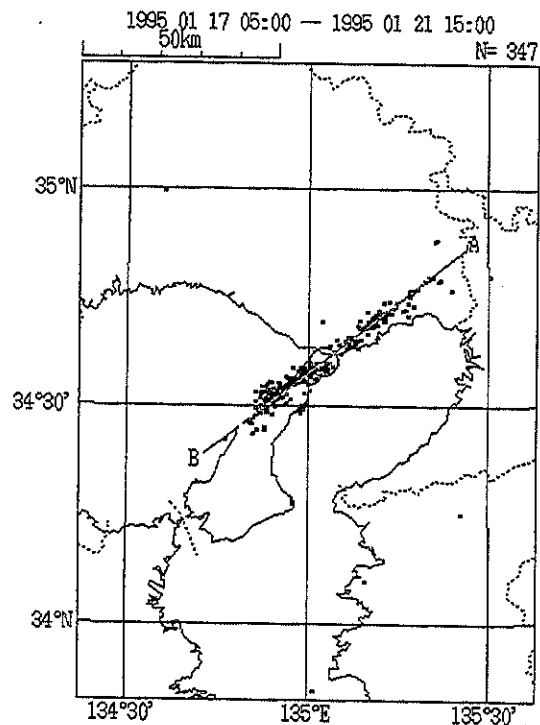
17 ~ 19 日

20 日

21 日

兵庫県南部地震の余震活動

平成7年1月21日 17時
気 象 庁



日付（時間の流れ）→

自動震源決定できた余震についてその震源の分布からは、余震域の全域で満遍なく余震は発生していることがわかる。しかし、発生位置の時間変化を見てみると、余震域の北側が南側に比べ活発な時期と、北側に比べ南側が活発な時期とがあるような傾向も見える。

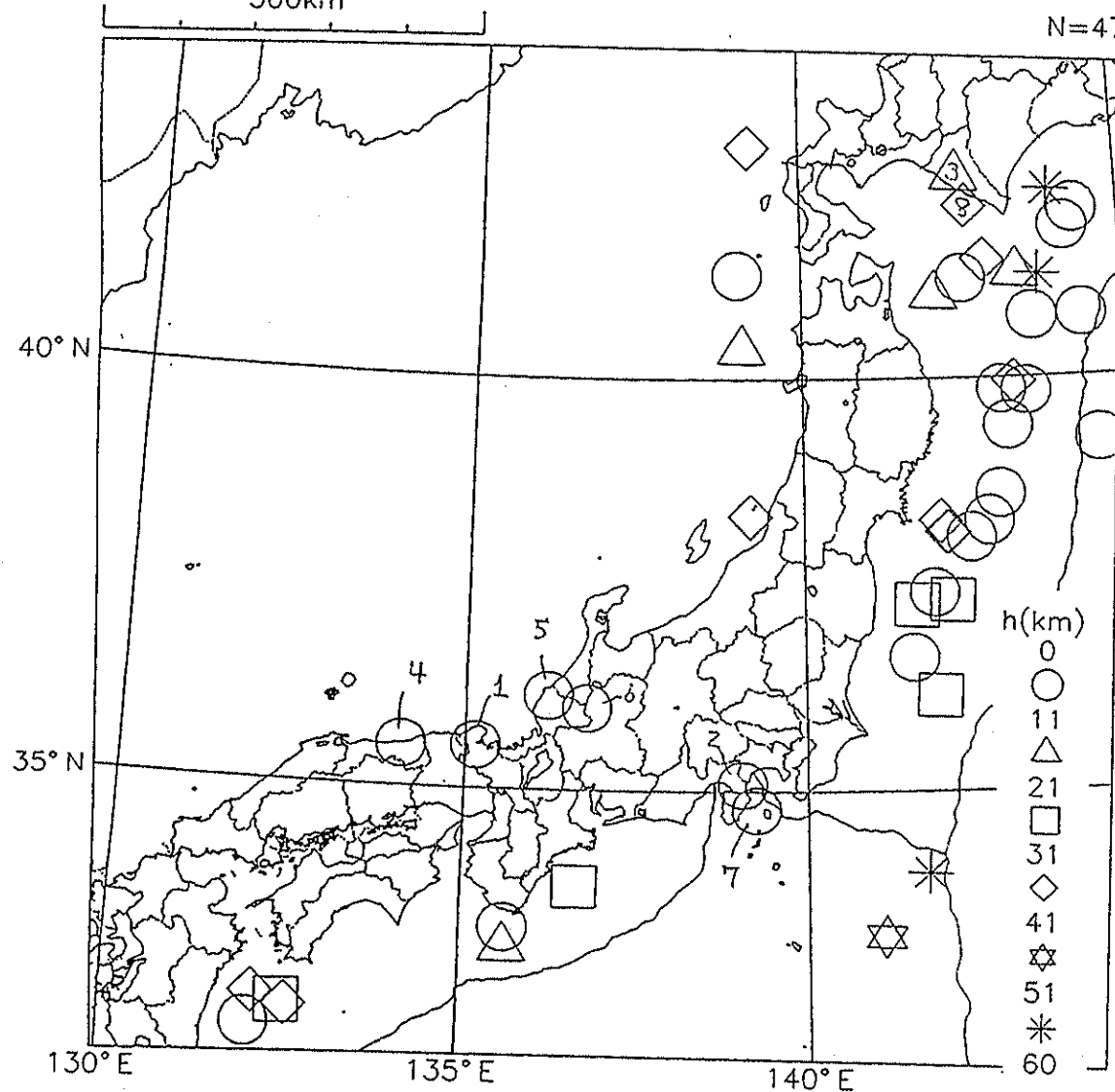
過去の資料に基づく内陸におけるマグニチュード7

以上の地震の最大余震について

平成7年1月21日 気象庁

1926 01 01 00:00 -- 1994 09 30 / 1995 01 20 23:59

N=47



内陸で発生した地震で本震 $M \geq 7.0$ $h \leq 60\text{km}$, 1926-1994

本震	最大余震	第2最大余震
① 19270307 北丹後地震	7.3	6.5 (24.5d) 6.3(17m)
③ 19301126 北伊豆地震	7.3	5.9 (197d) 5.3(101d)(2個)
③ 19321126 浦河	7.0	5.9 (7.6h) 5.6(21.0d)
④ 19430910 鳥取地震	7.2	6.2 (16.7h) 6.0(28m)
⑤ 19480628 福井地震	7.1	5.8 (6m) 5.5(27m)
④ 19610819 「北美濃地震」	7.0	5.2 (2.6h) 5.0(15m)
⑦ 19780114 伊豆大島近海地震	7.0	5.8 (19.1h) 5.4(19.2h)
⑧ 19820321 浦河沖地震	7.1	5.8 (7.8h) 5.2(3.7d)

注 * 「1978年伊豆大島近海の地震」

** 「昭和57年(1982年)浦河沖地震」

「」は命名したもの。

()内は本震発生からの経過時間。

d=日

h=時

m=分